

NO.95

平成16年1月1日発行

S H I M I N P H O T O

市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島



屋外のオブジェ

Outdoor Objet



【ガス灯】

~歴史と文化の道~

CONTENTS

★表紙写真説明

今日はちょっと特別な日。友人を手作りの料理でもてなします。色々とりどりの料理に会話を弾み、和やかな時間が過ぎていきます。

(協力:今村学園ファイセンスアカデミー)

【特集】かごしま・食の力	3
クローズアップ	12
中村修さん	12
学校探訪	14
伊敷台中学校	14
カメラトピックス	16
ハロー鹿児島	18
アーティスト・ワインストラßen	18
私の好きな場所	20
白鳥見なみさん	20
ふるさと再発見～美術編～	22
あなたのフォトサロン	24
安藤照	24
よかタイム	26
武岡台高等学校 写真部	26
あなたが撮った写真	27
日高和磨さん	27
街角ウォッチング	28
西鹿児島駅周辺	28
わが家の味じまん	29
岩元さんファミリー	29
館のたからもの	30
平川動物公園	30
わが町上空	30
支所編	30
谷山支所周辺	30



特集 かごしま
食の力

今、食の見直しに取り組む活動が活発になっている。
学校で、生産の場で、お店で、地域で。
食を通して見えてくるものはなんだろうか。

給食は生きた教材

教育の場で



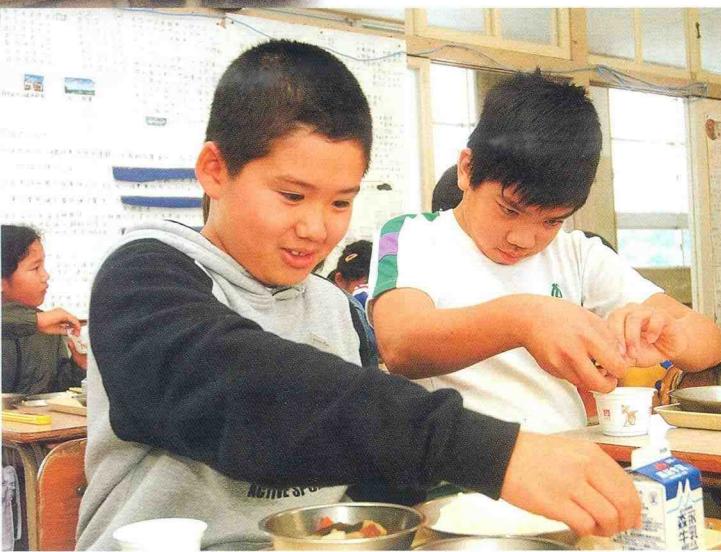
西陵小学校の学校給食試食会。子どもたちの給食を知るだけでなく、家庭での栄養バランスを考える機会となっている



南小学校6年生は年1回のバイキング給食。食に感謝し、自分たちでバランスよく食べ物を選ぶ力を身につける場となっている



草牟田小学校のこの日の献立は地鶏の煮込みなど。伝統的な鹿児島の味を知り、地元食材への関心を高めてもらう目的で取り入れられている



食が育む
心身の健康

学校給食はただ昼食としての役割をもつのではない、どのような食材をどのように組み合わせて食べるかを体験する場でもある。

給食を通じて子どもたちに学んでほしいことを草牟田小学校・学校栄養主査の本順子先生に聞いた。

「現在の学校給食の大きな特色は、地産地消（地域でとれた食材をその地域で消費する）、季節ごとの食材を使う、郷土料理を取り入れるということです。地元でとれた旬のものや伝統的な料理を出すときは子どもたちに説明し、食に関心をもつてもらうようにします」

今の子どもたちは、堅いものが苦手だったり、野菜を食べなかつたりする傾向があるが、いろいろなものを食べる機会を与えることが大切である。食べるうちに好きな子が多いという。

「食に関心をもつことは、自分の健康を管理する能力を身につけることにもつながります。また何よりも心の健康を支えるのも食だと思います。食を介してとる家族や友だちとのコミュニケーション。広げて考えると社会全体に与える影響も大きいということではないでしょうか。」

給食を通して、子どもたちから家庭へ、家庭から社会全体へと食への関心が広がっていってほしいと思います」

生産者の「顔」が見える

生産の場で



火山灰や雨、風に強い硬質プラスチックハウスの中で、収穫作業が進む

安全で新鮮な 野菜を安定供給

小山田町の一里原営農団地。230棟もの硬質プラスチックハウスが並び、ミズナ、コマツナ、シュンギク、チンゲンサイといった軟弱野菜などが栽培されている。ここで育てられた野菜はJA鹿児島県経済連の減化学肥料栽培の認証マークを付けて出荷されている。

一里原園芸組合長の松元純博さんに聞いた。

「病害虫防除は作物が小さいうちに1回実施し、収穫前には行いません。また、このハウスの側面には虫を通さないよう細かい網目のネットを張り、農薬の使用を極力

抑えるようしています。

病虫害のことを考えると、すべての農産物を無農薬で育てるにはむずかしいと思います。でも、なるべく減らすことはできます。敏感な消費者の皆さんのがーーズに応えられるように努力を続けていきたいと思います」

安心して食べられる農産物への関心が高まるなか、生産者も責任をもって市場に供給する努力を続けています。



左から仮屋淳さん、仮屋孝さん、福森弘人さん、仮屋武志さん

環境と 調和のとれた生産

吉野地区・エコファーマー
制度に取り組む

出荷しているエコファーマーの皆さんはこう語る。

環境にやさしい農業を進める農業者をエコファーマーとして認定す

る制度。市内では現在13人が認定を受けている。

吉野地区でミズナ、チンゲンサ
イなどの軟弱野菜を中心に生産・

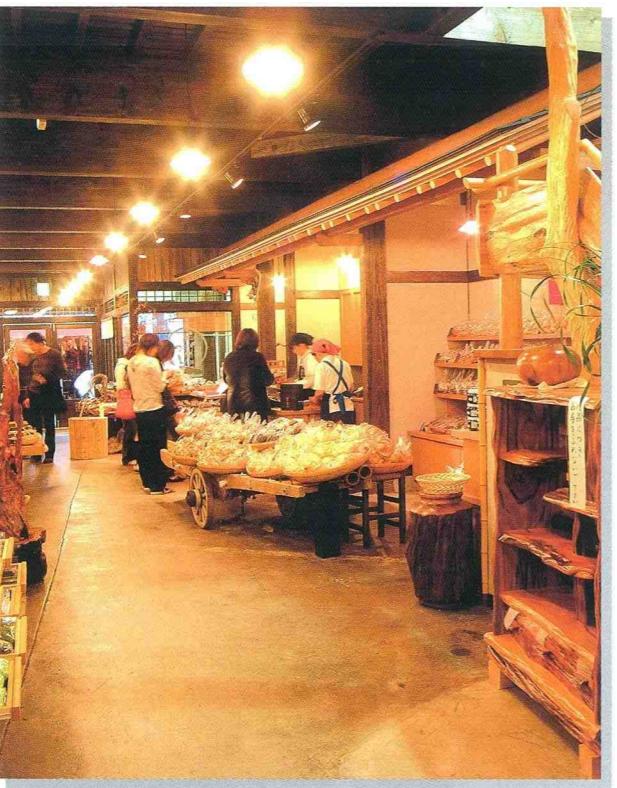
「お客様の健康を考える」



月1回行われる「食事と雑学講座」。
店に講師を招き、講演のあと食事をとりながらの懇談会

お店はどんな取り組みを始めたところか

消費の場で



「文化を伝える、思い出を残す」



細長い通りのような店内を歩きながらお客様がお菓子選びを楽しむ天文館の菓子店。営業企画部長の成瀬一憲さんはお菓子への思いをこう語る。

「鹿児島には330年余りの歴史を持つかるかんをはじめ、からだんだんご、あくまき、ふくれがし、いこもち、春駒などの郷土菓子があり、それぞれに歴史があります。これらは地域に密着した文化でもあります。お菓子という身近なもので、その土地にあるよいものを見直す。歴史を大事にし、いいものは残すということを続けていきたいですね。」

また、子どものころ食べたお菓

子の思い出は皆さんそれもつてていると思います。食べることへの感動が薄れている時代といわれますが、お客様に共鳴してもらえるお菓子づくりをしていきたい。身近なものだからこそ、大切にしたいのですね」



お客様の健康を考えた店それぞれのメニューが登録されている

市が進めている「かごしま市民健康55（ゴーゴー）プラン」。一人ひとりの生活習慣を改善し、自立て生活できるいわゆる健康寿命を延ばすことなどを目的にしたものである。

市健康づくり推進課では、このプランを推進するための施策として、市内の飲食店で栄養バランスやカロリーの基準を満たしたメニューを登録し、提供してもらう「体にやさしいかごしまメニューのお店事業」に取り組んでいる。

現在市内37店で238メニューが登録されており、プランの推進組織である市健康づくり推進市民会議のホームページでも紹介している。

その中の一つ、カレー店店主の大重龍千さんに聞いた。

「体にやさしく、バランスもとれ

ている」というと和食や定食というイメージがあると思いますが、野菜がたくさん入ったカレーもバランスのとれたメニューです。また、スパイスは漢方薬として使われることもあります。気楽な形でお客さんをフォローし、アドバイスしていくからだと思います」

母の料理で実感する
食への感謝、
心の安らぎ

市長に聞く



食事は家族と話しながら 楽しく食べる

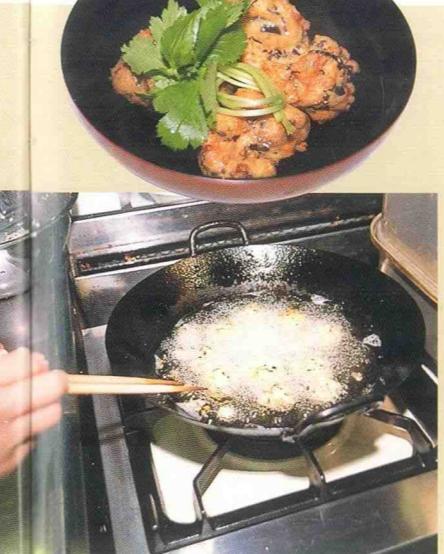
食事はなるべく家族一緒に食べ
ることが大事ですね。リラックス
して楽しい話をしながら食べる。
食事は家族の心がふれ合うとても
大切な時間です。

私はここ数年、幼いころに母親が
作ってくれていた料理にならって、
野菜中心の食事にしています。自
然の恵みへの感謝と、母への追憶が

体験で生まれれる食への感謝

学校の授業で子どもたちが米
作りやイモ作りを体験することも
多くなりました。自分たちで苦労
して作った食べ物への愛情はひとし
おだと思います。このことを通じて

わき、心の安らぎを感じますね。
今の子どもたちにももつと野菜
を食べて、自然の恵みを実感してほ
しいですね。



食 和 が 呼 ぶ

食をおろそかにしないということ

食の教育、安全性・健康への配慮。何の苦
労もなく食べ物が手に入る今、食をめぐる
動きが活発化している。

中学生の食生活学習の教材に「コンビニエ
ンスストアを賢く利用し、バランスのよい食
生活を」という記述を見ると、時代は変わっ
たと感じる。便利な時代は、その便利さの
中から自分のためになるものを選択する
力を身につけなければならない時代でも
ある。

いうまでもなく食はすべての根本である。
人の命を支える食は、生活や社会全体に計
り知れない影響力をもつ。

しかし、食にはもう一つの面があるので
はないだろうか。人が人のためにおいしい
ものを食べさせてあげたいと思って作る。
そして、それを感じながら味わって食べる。
そこには人と人の心のやりとりの基本があ
るようと思える。

心と体に働きかけるコミュニケーションの
手段として、家庭で社会で食をおろそかに
しないことこそが、私たちにとって今一番必
要なことなのではないだろうか。

農家の方々の苦労がわかれば、いつ
も食卓に並んでいる料理を見る目
も変わってくると思います。

また食の基本は「噛む」ことです。
健康のためだけでなく、ゆっくりと
時間をかけて噛むことで食べ物を
おいしく味わうことができます。
また作ってくれた人たちへの感謝の
気持ちも自然とわいてくるのでは
ないかと思いますね。

Close Up

クローズアップ

西鹿児島駅長 中村 修さん

昭和25年曾於郡大崎町生まれ。昭和45年国鉄入り。振り出しへ志布志駅。昭和62年のJR九州発足後、川内駅長、鹿児島支社営業課長など歴任。平成15年2月より現職。



乗り場をやさしく案内

西鹿児島駅第41代の駅長はとにかく行動派。新幹線開業を間近に控え、鹿児島に来てくれた人に感動を与えたいと、駅を率先して動く。心からもてなし、それは新幹線が來ても変わらない。

をしている職員の手を止めてはいけません」。最初に配属されたのが志布志駅。働き始めたらトイレが汚いのが気になった。そこで、自分から進んでトイレ掃除をやってみた。そのうち、きれいになるのがうれしくて、ますます一生懸命やるようになった。

半年後、そのことで思いがけず表彰を受けた。大変名誉なことだと思って、それ以来、川内駅でも西鹿児島駅でもトイレにタワシを設置して、巡回のたびに汚れていたら洗っている。

駅長室を訪れる人は皆一様に驚く。そして、恐縮する。駅長が自らお茶を出してくれることに。

「駅長だからといって、ふんぞりかえつて威張る必要はないんです。仕事

トイレ掃除が、中村さんのホスピタリティの原点なのだ。そのホスピタリティが西駅を変えた。中村さんの顔もほころぶ。

昨年2月赴任したとき、駅員たちにまだまだ客への感謝の気持ちが出ていないことに気付いた。そこで、あいさつやちり拾いを率先してやることにした。やがて、駅員全員は当然のこと、売店の店員らにもあいさつやちり拾いをはじめサービスの意識が浸透していく。ついには窓口や電話での応対ぶりを試す覆面審査の結果、JR九州直営の109の有人駅で、第一位を獲得した。西鹿児島駅に来て、

西鹿児島駅は大正2年「武駅」として誕生。昭和2年に現在の駅名に改称している。同30年代からは特急など優等列車の発着が西駅になるなど、市の表玄関としての地位が高まった。駅前広場の噴水設置(同38年)、ホーム地下道の完成(同44年)、鹿児島線電化開業(同45年)など着実に整備が進み、平成8年に現在の近代的な駅舎に建て替えられた。1日約3万人の乗降客でにぎわう西駅。新幹線の開業、そして「鹿児島中央駅」への改称

90年の歴史を誇る

“西鹿児島駅”を見送る第41代駅長



お客様さまに感動を与える

は間近に迫っている。
「このような重要な時期に駅長をさせていただいていますので、大変ありがたく、一生懸命頑張っています」。

「西鹿児島駅」の名前がなくなることは一抹の寂しさを感じている中村さんだが、廃止されるのではなく、新たな発展へのスタートなのだからと前向きに捉えている。

「鹿児島には観光地としていい素材がたくさんある。でも、まだまだ市民の意識が低い。鹿児島全体が心をこめて来られた方々に接することで、もつとすばらしく見えるようになる。そう、もつと一生懸命歓迎して感動を与えなければ、いくら新幹線が来ても、鹿児島は福岡など大都市へストローされるばかりでしょう。新幹線開業まで待つたなし。鹿児島のみんなで、心からお迎えをしたいですね」。

仕事を辞めたら、心のおもむくまま、あちこちさすらって、趣味の絵を描くのが夢、という中村さんは、今日も自らお茶を出し、明るく楽しく走り回っている。



伊敷台中学校



楽しい学校、
明るい生徒



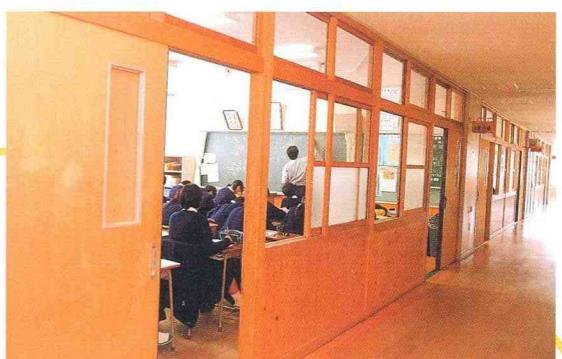
伊敷ニュータウンの西側に位置する



創立 平成6年4月1日 生徒数 816人 (平成15年12月1日現在)



今年度、開校10周年を迎えた



教室や廊下には木をふんだんに使ってある

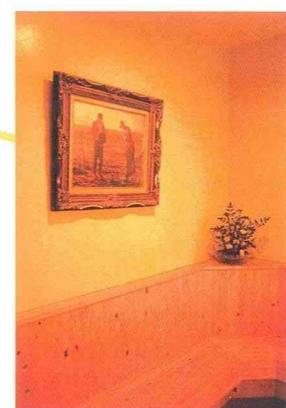


生徒も参加の
Parent Teacher Student 活動

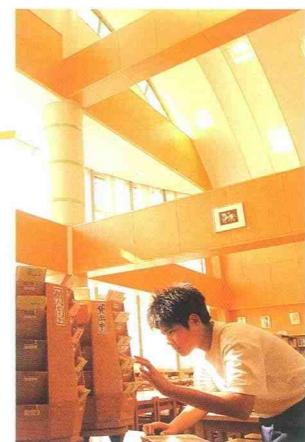
行事の企画の段階から生徒も参加するPTS活動。
この活動が評価され、優良PTAとして、今年度文部科学大臣から表彰を受けた



男女ともブレザーの制服。
市内の公立中学校ではここだけ



校内は木の香りと温かい光が
満ちている

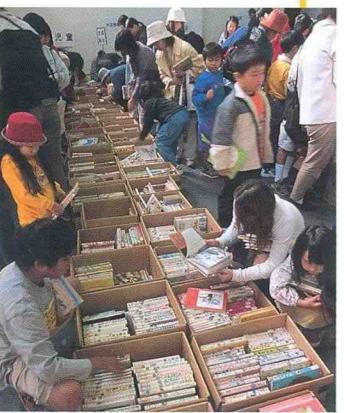


図書室は2階吹き抜けで明るく
ゆとりがある





11月23日 農業まつり
実りの秋。ジャンボ鍋や農産物の即売コーナーなどに長蛇の列。サツマイモの収穫体験もあり、子どもたちの歓声が響きました。



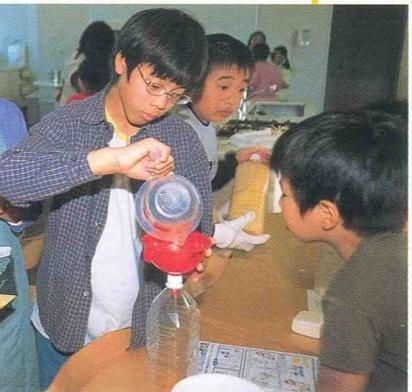
11月23・24日 リサイクルブックフェア
図書館で利用されなくなった本を活用してもらうため市民に無料で提供。約4万冊の本からじっくりとお気に入りの本を選んでいました。



12月中旬
みなと大通り公園イルミネーション
今年は18時に点灯したあと、18時59分にいったん消え、19時ちょうどに再点灯するため、点灯の瞬間を楽しむことができます。1月31日まで行なわれます。



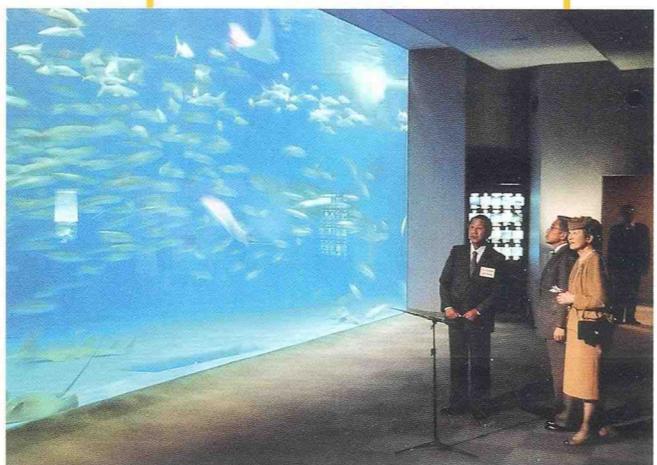
11月9日 福祉ふれあいフェスティバル
福祉への理解と関心を深めてもらうイベント。車いすでの社交ダンスも行われ、多くの市民が交流を楽しみました。



10月26日 環境フェスタかごしま
テーマは「豊かな環境輝く未来」。会場では子どもたちが廃食油を使った石けんづくりなどに真剣に取り組んでいました。



10月31日 本郷かまとさんご逝去
9月の敬老訪問では元気な姿を見せてくれた本郷かまとさん。長寿世界一の116歳。明るい人柄で市民に夢と希望を与えてくれました。



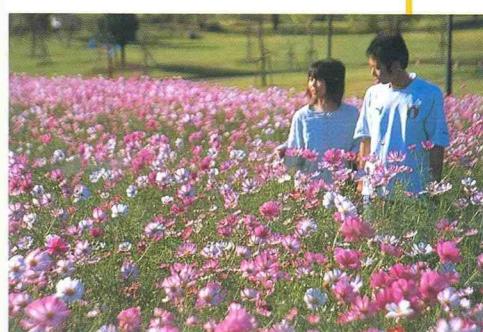
11月14日 天皇・皇后両陛下行幸
鹿児島は16年ぶりのご訪問。かごしま水族館では錦江湾の生き物などを熱心にご見学になりました。



11月2・3日 第52回おはら祭
今年は「ようこそ新幹線」をテーマに約2万4千人の踊り手の熱気は雨をも吹き飛ばす勢いでした。新幹線キッズパレードも行われました。



10月15日 新幹線開業カウントダウン除幕式
150日前から始まったカウントダウン。3月13日の九州新幹線鹿児島中央・新八代間開業まであとわずかです。



10月中旬
コスモス(都市農業センター)



桜島、お祭り、プリクラ… オランダではないものが たくさんで楽しい



【オランダ出身】

アテ・レイン・ヴィンストラさん

Hello
KAGOSHIMA



学生服を着た留学生

「ここにちは」元気よく登場した

鹿児島玉龍高校2年生のアテ君。第一印象は、日本の高校生と違い大人っぽく、学生服姿に多少違和感を感じた。しかし、人見知りをしない屈託のない笑顔を見ていると、日本の高校生のように思えてきた。「恥ずかしがり屋さんが多い」それが、日本人に対する印象。

学機構が決めるため、自分では選べない。

これも運命なのだろうか。アテ君の実家には、桜島の絵が飾ってあり、小さい頃から鹿児島に親しみがあった。その桜島のある鹿児島が留学先に決まったときの感激といつたら言葉にならないほどであった。桜島を初めて見たとき、とても大きく、登つてみたいと思ったという。登れないことが分かると、残念そうでその表情がまた印象的だった。

鹿児島での生活

日本の文化や言葉を勉強し、新しい体験をしたかったというのが、留学先を選んだ理由。しかし、日本のどこの市町村に行くかは留

いうまちはオランダの北部に位置する。気候は北海道と同じくらい。冬は川が凍るため、そこでスケートをして遊んでいる。

日本では、バスに乗って、天文館に行き、友だちと買い物やオランダはない大好きなプリクラを撮る。そして、部活動ではテニス部の仲間と楽しそうにプレーをする。ボールを追う目はとても真剣だ。「部活の仲間の中で、僕が一番

下手。週に1回しか練習できない。できるものならもっと練習したい」。

おはら祭りも参加した。「オランダには、日本のようなお祭りがないのでとても楽しかった」。

大晦日と新年が楽しみ。昨年の9月に来たばかりなのに、除夜の鐘を鳴らす回数まで知っていた。

そんなアテ君、日本語の練習も欠かさない。会話はほぼ日本語を使う。一番の練習は友だちとの会話。積極的に話しかけるようになっている。友だちから習った鹿児島弁を得意げに披露し、先生たちを驚かせていた。

夢は大きく

アテ君の住むフローニンゲンといふまちはオランダの北部に位置する。気候は北海道と同じくらい。冬は川が凍るため、そこでスケートをして遊んでいる。

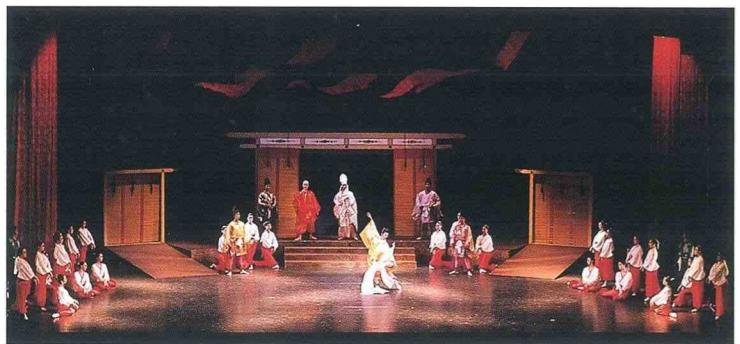
日本での生活は8月まで。オランダに帰ったら、まず大学に行って、精神科医になりたい」そう語るアテ君の顔は、鹿児島での生活を話してくれるとき

と同じ表情で、とても生き生きしていた。きっと、毎日の生活を一生懸命過ごしているから、未来を話す表情も自然と素敵なものになるのだろう。

- Arbeid rusting zonder zorgen wat niet gereed is komt voor morgen.
明日があるから 心配しないで ゆっくり働こう



意気込んで階段を上がる皆さんに 最高のものを観てもらいたい



「平家物語」の一場面

市民文化ホール

この階段すてきでしょ。パリのオペラ座の入口もこんなふうに階段があるんです。18世紀には馬車を降り、期待を胸に階段を上つて劇場に入つたんです。これからどんなものが観られるのか、わくわくしながら意気込んで上の階段だと思うんです。

行かれることになつて、後継者に指名されました。

白鳥会(現白鳥バレエ団)を率いるようになつたのは、16歳のとき。白鳥会を主

宰されていた先生が東京になりました。「自分がやらなければ鹿児島からバレエがなくなつてしまふかも知れない」と無我夢中でした。高校に通いながらバレエ団を指導、休みの時は、東京小牧バレエ団で学びました。そのころ東京に行くには、飛行機ではなく、寝台列車。何時

間も揺られて通いました。29歳のときは文化庁の芸術祭に地方バレエ団として初参加。「鹿児島産のバレエを東京で試してみたい、バレエを通して鹿児島の文化を知つてもらいたい」そんな思いで芸術祭に臨み、日本の夜明けを表現した創作バレエ「ヤマトタケル」は高い評価を得ることができました。

平成6年に市民文化ホールの自主文化事業で「平家物語」を公演しました。外国や東京のものが多い自主文化事業に選ばれたのは誇りですね。

20年前に市民文化ホールが開館したときは、大きな舞台で踊れるようになると喜びました。眼前に桜島もあつて、鹿児島にいることを感じられる。すばらしい場所ですよね。開館時、市長と共に市民

文化ホールを紹介するテレビ番組に出演したことがあつて、ホールからエントランス、舞台裏、モニュメントまで残らず見ていきました。なつかしい思い出です。

今、プリマバレリーナ、指導者、母、妻など一人で十役ぐらい。いろんなことがありますが、何とか乗り越えています。ずっと走り続けています。

観客の皆さんに最高のものを観てもらえるように、いのちをかけて、精一杯やっています。創作、振り付け、指導、そして自分の練習。それは大変なのですが、皆さんに感動していただくことで、世の中の役に立ちたいと思っています。

舞台に立つと、観客の皆さん的心が伝わってきます。舞台は、わたしと観客の皆さんのいのちをやりとりする場所です。公演が終わつて、多くの人がそれぞれの思いを胸に満足した顔で下りていく階段もまた、いいものでしょう。

【取材メモ】

鹿児島の文化を中央へ発信したり、県内の巡回公演を行つたり。忙しい生活を送られているはずなのに、穏やかな話し方で、優雅な雰囲気が漂つています。バレエの話が進むにつれ、小柄な体から、たくさんのエネルギーと魅力が放たれているのを感じました。



鹿児島県バレエ協会会長
白鳥 見なみさん

昭和14年鹿児島市生まれ。
県芸術文化奨励賞、橘秋子賞功労賞など多くの受賞歴をもつ。
日本的な歴史を題材にした創作バレエの発表、人材育成、県内巡回公演など、鹿児島のバレエの発展に尽力。
今年度の地域文化功労者文部科学省大臣表彰受賞。

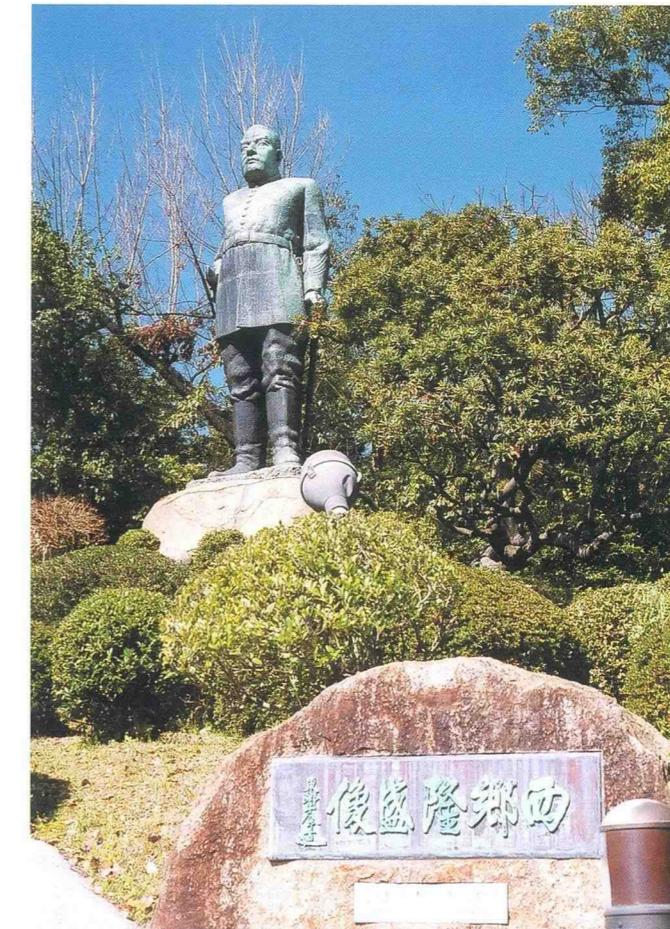
和の好きな場所

My favorite Place

安藤 照

文市立美術館
山西 健夫

内なる強い意志ともつ
郷土の偉人を表現



渋谷のアトリエで、西郷隆盛像の原型の
向かって左に立つ安藤照氏（「鹿児島市
100年の記録」より）



安藤は西郷像制作に全力を傾注する。国内はもとより、遠くヨーロッパ各地も巡り歩いて、銅像についての研究を深めた。困難を極めたのはやはり顔の造型である。西郷は写真を残していないため、従来の西郷肖像を検証しながら、西郷を知る近親者などへの取材を入念に行ってイメージをつくりあげていった。

鹿児島に残されている。銅像の建つ築山も安藤の考えによるもので、小根占海岸から運ばれた花崗岩五百五十個が積まれている。

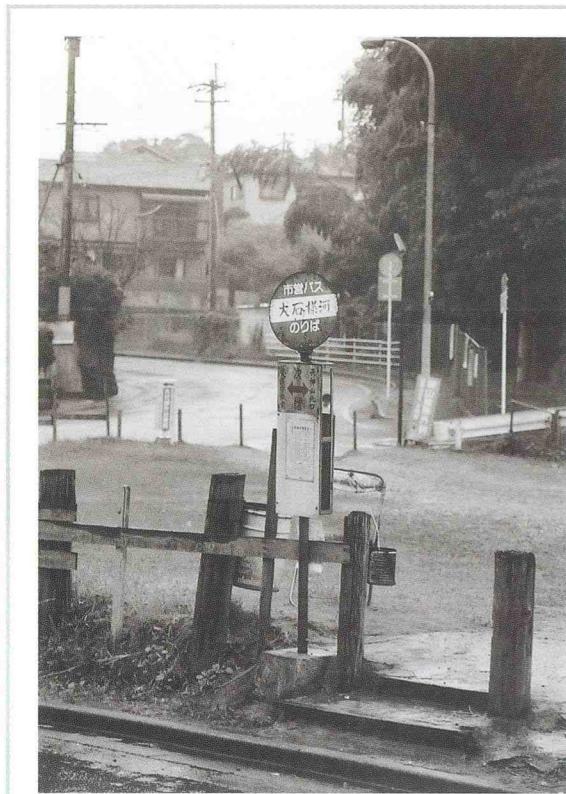
安藤は明治二十五年、鹿児島市加治屋町に生まれた。市立病院の北東角に生誕の石碑が建てられている。県立二中（現・甲南高校）から早稲田の商科に進学するが、彫刻への思いは断ち難く、大正六年に東京美術学校彫刻科に入学した。入学制限ぎりぎりの二十五歳のことである。学校では朝倉文夫の教室に学び、在学中から帝展に入選するなど早くも彫刻界期待の新人として注目されている。

卒業後も帝展には入選を続け、特選、帝国美術院賞の受賞を経て昭和二年には審査員に選ばれる。そして同じこの年に鹿児島から大きな制作依頼が飛び込んできた。それが「西郷隆盛像」である。これは西郷没後五十年にあたり、南洲翁五十年祭奉贊会総裁の東郷平八郎が安藤に制作を依頼したものである。

そして服装は、西郷家に残されていた陸軍大将服とすることにした。これは、明治六年、天皇による最初の陸軍大演習が習志野で挙行された際に西郷が着ていたものである。西郷は風雨のなか、夜を徹して天皇の周囲を自ら護衛として立つたと伝えられている。いまだにその時の雨のシミが残る服を見た安藤は、陸軍大将として全軍を統治し、天皇を守る責任感と気概に満ちた西郷の姿を銅像にするという構想を固める。

そして、依頼から十年を経た昭和十二年によくやく銅像は完成した。実は依頼主の東郷平八郎は昭和九年に亡くなっている。現在、銅像の下にある東郷による「西郷隆盛像」という題字は、東郷の健康状態が銅像完成までもたないと危ぶんだ関係者が、その生前に揮毫を依頼したものなのである。

渋谷に住んでいた安藤は昭和二十年の東京大空襲で亡くなり、その作品の大半も焼失した。しかし、外的な量感だけでなく人物の内面的な大きさをも表現した最大の代表作は

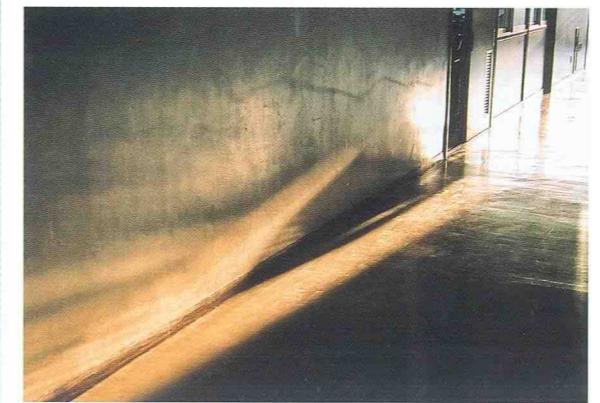


「似た物二人組」 中川 侑美(高1)



「時の流れの中で」

武岡台高等学校写真部



「陰と陽」 竹野 有香(高1)



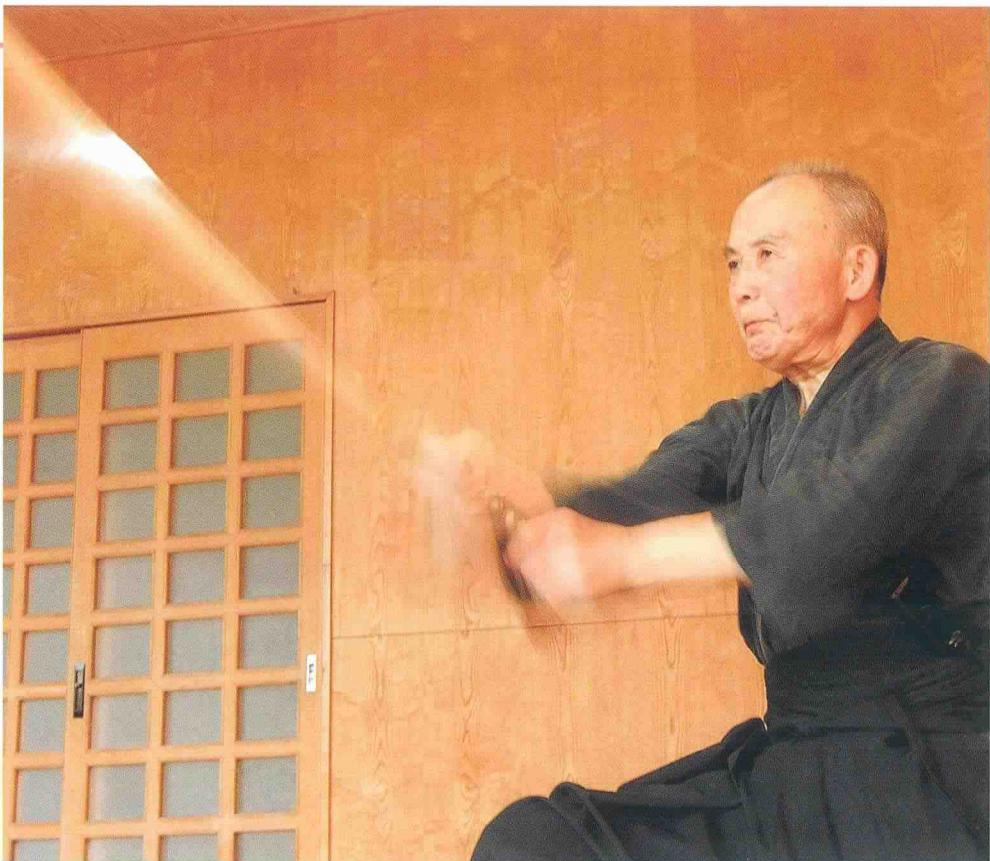
「放課後」 若松 智子(高2)



「郷愁」 又木 香名子(高3)

居合道

日高 和磨さん



最近、古武道を倣つた身のこなしや健康法が見直されつつある。居合道は、400年以上の伝統がある古武道の一つ。刀を鞘から抜いて納めるまでの一連の動きには心地よい緊張感が満ちている。

よかTIME
YOKAタイム

居合道を始めたきっかけは

74歳のとき無料体験会に参加したのがきっかけで、今年3年目を迎えます。

実は、沖縄空手を習っていた30年ほど前に古武道大会で居合道を見て「カッコいいなあ」と思っていたんですよ。

剣道とどこが違うんですか

相手と打ち合うのが剣道。居合道は仮想の敵を見立て、一瞬で斬りつけます。動の剣道、静の居合道と言ったりします。剣道と違うのは、何と言つても本物の刀を使うことですね。

えつ、これ真剣なんですとか

私はまだ模擬刀を使っていますが、原則として真剣を使い

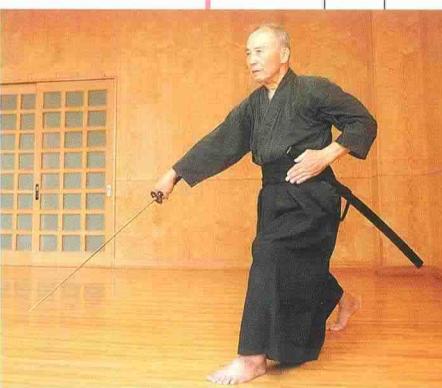
ます。振ることにヒュンと刃音がなると気持ちが引き締りますよ。

動きは決して派手ではないが、かなりの運動量がある。冬の道場でも寒さを忘れるほどだ。

居合道で大切なことは

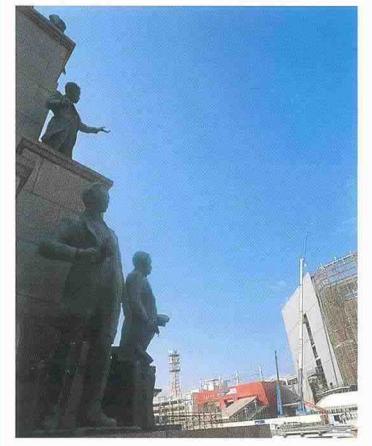
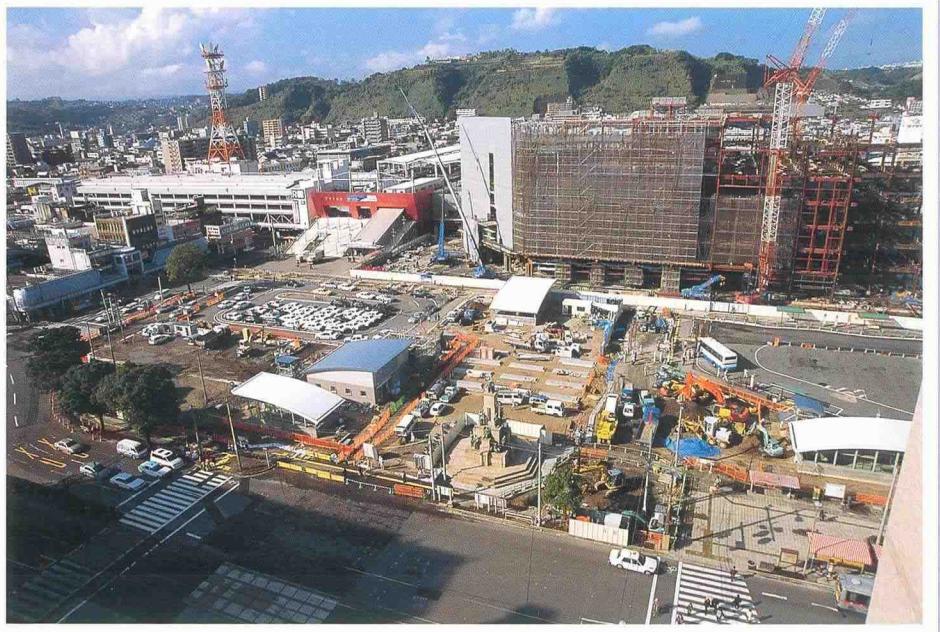
平常心でしうね。とは言ふものの私自身、大会の演武中に技をド忘れしてしまい、内心焦ったこともあります。

居合道は、老若男女を問わずマイペースで稽古できます。これからも修練を積んで、大会などでも動じない強い精神力を養いたいですね。



街角ウォッチング

～西鹿児島駅東口～



味 じ ま ん シ ョ



「鳥手羽のうま煮」

「ほうれん草の
しらあ
白和え」

岩元さんファミリー

[和田一丁目]

家庭の数だけ食卓があり、家庭の数だけ語らいがある。テーブルに広げられた自慢の料理は、家族の笑顔を演出する。

鹿児島市内におよそ23万7千世帯。一人から大家族まで食卓の風景はさまざま。わが家の味は家庭をどのように彩っているのだろうか。

「家族そろっての夕食は休みのときぐらいい」と重人さん。4歳の隆人君と間もなく2歳の琢人君の、やんちゃな2人の相手をしている。裕子さんは夕食の支度に専念。

砂糖じょうゆの甘いにおいでテーブルを見る。いつの間にか夕食スタンバイOK。

重人さんに抱えられ専用

いすに鎮座した琢人君。4人そろう前に白和えに手を

伸ばした。3人は急いで「いただきまーす」と後を追う。

結婚した最初の晩に出された鳥手羽のうま煮。重人さんは当時、こんなうまいものが家庭でつくれるとは思いもしなかつたという。

甘く煮込まれた鳥手羽にかぶりつくと、骨からの肉離れがよくて驚く。思はず量感のあるかたまりが舌に乗った。予想外のや

今回のレシピ

「鳥手羽のうま煮」

1. 材料(4人分)

手羽12本、ニンジン1本、ジャガイモ2個、砂糖大さじ2、みりん大さじ1、酒大さじ3、しょうゆ50cc、塩・コショウ適量

2. 調理手順

- ①手羽は水洗いし水気を取り、塩・コショウで薄く下味をつける。
- ②ニンジン、ジャガイモは1口大より少し大きめの乱切りに。
- ③深めの鍋を熱し、サラダ油を引き手羽の皮目を下にして並べ、きつね色になるまで動かさず焼きつける。
- ④出でた余分な油を吸い取り、②を入れ炒める。
- ⑤ニンジン、ジャガイモに油がなじんだら、砂糖、みりん、しょうゆを回しかけ、ざっくり混ぜてなじませ、酒を入れる。
- ⑥ひたひたまで水を入れ、沸騰したら中火の弱くらいにし、落とし蓋をして煮る。
- ⑦汁が少なくなったら鍋をあおるようにして、照りつけ、できあがり。



「ほうれん草の白和え」

1. 材料(4人分)

ホウレンソウ半束、ピーナツ30g、砂糖大さじ1、みそ小さじ1、白だし小さじ2、木綿豆腐半丁

2. 調理手順

- ①ホウレンソウはかために下ゆでして水分をよくしぶる。
- ②木綿豆腐は水切りする。
- ③すりばちにピーナツを入れ、よくすり香りを出す。みそ、砂糖を加えさらにすり混ぜ、②と白だしを加え滑らかになるまでする。
- ④食べやすく切ったホウレンソウと③をあえてできあがり。



わらかさ。溶けてのどを通り過ぎた。母の味を見よう見真似でここまで極めた。

テーブルには豚しゃぶの店からヒントを得た鍋料理も並ぶ。部屋が暖かい。そこで、ほうれん草の白和えを一口。さっぱり、ひんやりした。ピーナッツが香ばしい。歯ざわりもコリッとした心地よい。

「子どもが大きくなつたらいろいろ外食して、おいしかったものを家庭の味にアレンジしたい」と裕子さん。子どもたちの成長が待ち遠しい。

平川動物公園 「コアラ」



昭和59年10月25日、コアラが平川動物公園に初めて来園しました。市民の皆さんのがんばりで、鹿児島にコアラを」という夢は実現しました。早いもので、今年は来園20周年の節目の年を迎えます。愛くるしいコアラは大変な人気で、多くの皆さんに夢と感動を与え続けてきました。今でももちろん人気ナンバーワンです。

この20年間に国内では一番多い48頭

の子どもたちが生まれ、現在15頭の日本一大家族となっています(写真は日本一の子だくさんのピアとピアの8番目の子どもオクト)。平川生まれのコアラは国内はもちろん、遠くアメリカの動物園にも渡り、種の保存や国際親善に貢献してきました。

かわいくてふしぎな魅力をもつ平川動物公園の宝物コアラにぜひ会いにきてください。

(平川動物公園飼育係長 石堂昭憲)



「谷山支所周辺」

本市の副都心に位置付けられる谷山地区。国道225号と産業道路（一般地方道郡元鹿児島港線）は、地区を南北に貫く大動脈。JR指宿枕崎線もあわせ、地域の交通を支えます。

写真中央右、谷山小学校に隣接して谷山支所、国道をはさんで和田川のたもとに地域公民館の一つ谷山市民会館があります。錦江湾に注ぐ和田川は、上流では慈眼寺公園の中を流れ、市民の憩いの場所となっています。

谷山地区の人口は約15万7千人。区画整理が進み、高台には住宅団地が造成され、人口は増加傾向にあります。中心市街地活性化や指宿枕崎線の高架化など、都市基盤の整備がさらに進みつつあります。

昭和42年の合併から37年。街は姿を大きく変えました。平野部に広がる住宅地、大型店の進出が相次ぐバイパス沿い、そして臨海工業地帯。さまざまな都市機能を持つ谷山地区は、これらも活力ある街として、発展し続けることでしょう。

わが町上空 支所編



市民フオト

鹿児島

No.95

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号

電話 216-1133

印刷・レイアウト／測上印刷株式会社



R100

この広報誌は、古紙配合率100%の
再生紙を使用しています。